

出雲方言における中舌母音の音響的特性について

吉廣 綾子・岸江 信介・大山 玄

Acoustic Characteristics of Central Vowels in the Izumo Dialect

Ayako Yoshihiro; Shinsuke Kishie; Gen Ohyama

Abstract

In this paper, we analyzed vowels of the Izumo dialect in Shimane prefecture on the basis of formant analysis. It has been well known that vowels such as /i/ and /e/, and, /i/ and /u/, are assimilated in almost all of the Izumo dialect. Formant frequencies of /e/ of /eki/ in the Izumo dialect is closer to those of /i/ than /e/ in Standard Japanese. Also, formant frequencies of /i/ of both / ζ i ζ i/ and /su ζ i/ in the Izumo dialect is closer to those of /u/ than /i/ in Standard Japanese. In addition, the generation gap is not observed; a middle-aged group does not tend to distinguish /i/ from /e/ and /i/ from /u/ as well as an old-aged group.

1. はじめに

島根県の東部に位置する出雲地方は、遠く離れた東北方言のズーズー弁のように中舌母音を有する地域として知られる。例えば、出雲市では[sisi] (寿司・煤)、[tsitsi] (土) のような[i]の中舌母音がみられ、また[ewasi] (いわし)、[ɛtoganɛ] (糸金-針金) のように[e]の狭母音が現れることなどが挙げられる。(飯豊他, 1982)。さらに、出雲方言の中舌母音は[ɨ]よりも[i]が多く分布しているという記述もある。(今石, 1997)。

このように、中舌母音や狭母音は、一般的に音声記号で記述されたものが多いが、実際の音声がどのような音響的特性を有しているか明らかでない部分も少なくない。その記述された音声に音響的記述が加われば、より明確に出雲方言の特性を知ることができると思われる。今石氏(1997)では、出雲市における中舌母音の音響的研究をおこない、[i]→[i]→[ɨ]→[ɯ]の順にF1が高くなり、F2が低くなるといった位置関係を示している。

今回の研究では出雲地方の6地点を調査の拠点にし、中舌母音や狭母音が存在するか否かを調べた上で、それらの音声における音響的特性を考察した。

2. 調査概要

2.1 調査地点と手続き

調査地点は、出雲市(現出雲市)、平田市(現出雲市)、大社町(現出雲市)、斐川町(現斐川町)、三刀屋町(現雲南市)、仁多町(現奥出雲町)の6地点とし、¹島根県東部でも特に出雲市に隣接する市町村を選んだ。人口は大社町15,657人、平田市28,280人、斐川町27,356人、出雲市88,230人、三刀屋町8,442人(H15時点)、仁多町8,406人で、高齢者比率20%~30%を占める地域である。²

話者と調査場所は、予め各市町村の教育委員会に話者の斡旋を依頼し、調査場所も会議室や防音設備の整った部屋など、比較的静かな場所を確保してもらった。

¹ ちょうどこの時期から島根県における「平成の合併」が始まり、50市町村(16年10月時点)から1年間で21市町村(17年10月時点)に減少した。筆者らが調査を行ったときはまだ合併前であったため、本論では合併前の市町村名を採用した。

² 島根県市町村データブック平成16年版による。

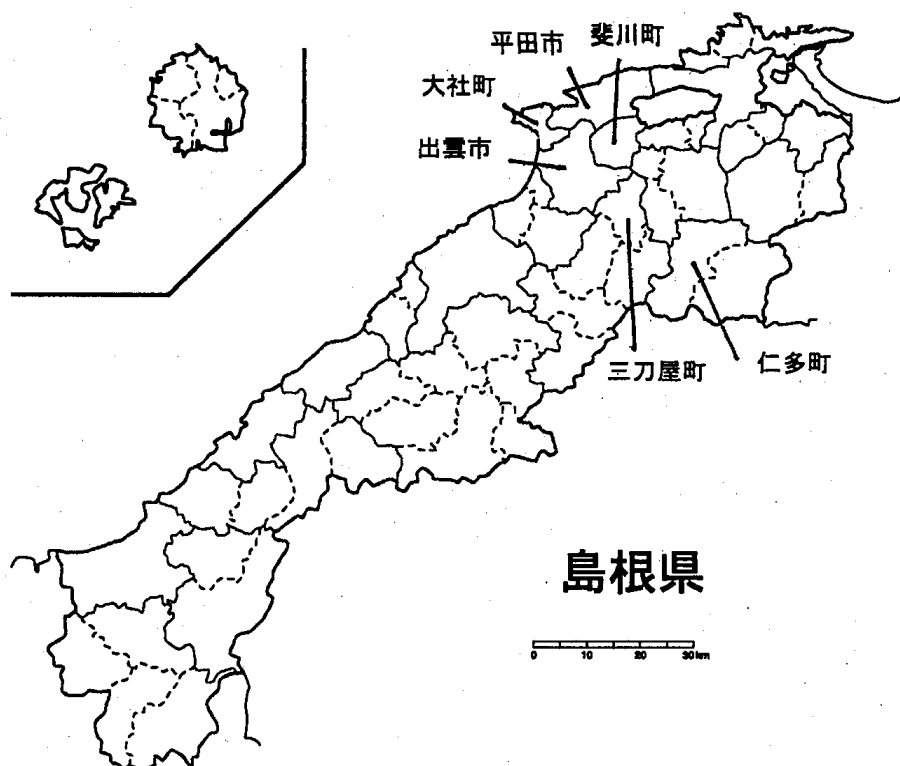


図 I. 島根県の調査地点（合併前）

2.2 話者データ

話者のデータは以下の通りである。なお、世代差をみるため青年層（35歳以下）、中年層（36歳～60歳）、老年層（61歳～75歳）、古老層（76歳以上）の4つの年齢層を設けることにした。

| | | | | | |
|-----|--------|-----|-----|---------|-----|
| ①YK | 出雲市大社町 | 58歳 | ⑪TK | 簸川郡斐川町 | 76歳 |
| ②RI | 出雲市大社町 | 76歳 | ⑫RN | 簸川郡斐川町 | 78歳 |
| ③TN | 出雲市大社町 | 80歳 | ⑬II | 出雲市天神町 | 40歳 |
| ④YN | 平田市平田町 | 57歳 | ⑭YT | 出雲市上塩治町 | 61歳 |
| ⑤MT | 平田市平田町 | 92歳 | ⑮KF | 出雲市塩地町 | 79歳 |
| ⑥MK | 簸川郡斐川町 | 34歳 | ⑯HE | 出雲市上塩治町 | 69歳 |
| ⑦MM | 簸川郡斐川町 | 44歳 | ⑰SS | 飯石郡三刀屋町 | 57歳 |
| ⑧TH | 簸川郡斐川町 | 66歳 | ⑱HH | 出雲市仁多町 | 48歳 |
| ⑨YS | 簸川郡斐川町 | 65歳 | ⑲HE | 出雲市仁多町 | 77歳 |
| ⑩HH | 簸川郡斐川町 | 65歳 | | | |

2.3 調査項目

以下の調査項目をひと続きに2回ずつ発音してもらい、DATに録音した。

- ・ いと (糸) と えと (干支)
- ・ いま (今) と えま (絵馬)
- ・ すし (寿司) と しし (獅子)
- ・ しし (獅子) と すす (煤)
- ・ しし (獅子) と すす (煤)
- ・ すす (煤) と すし (寿司)

3. 分析の手順

本研究では、まず聴覚判定により調査項目に挙げた2つの音声は区別できるものか否かを判定し、「区別あり」と「区別なし」の2パターンに分けた。「区別あり」は、「い」と「え」、「し」と「す」の音声は明らかに[i]と[e]、[ʃi]と[sü]であったものを、「区別なし」はそれらの区別ができない、或いは区別し難い音(すなわち出雲方言に特徴的な中舌化した音声)をそれぞれ判定基準にした。次に、その2パターンの音声について、第1フォルマント及び第2フォルマントを測定し、それらの値を座標軸にしたF1・F2散布図を作成した。音響分析には音声録聞見 for Windowsを使用した。

具体的な手順は以下の通りである。

例) 母音「いと(糸)」: 「えと(干支)」

聴覚判定 → 区別あり → フォルマント測定 → F1・F2 散布図の作成
 → 区別なし → フォルマント測定 → F1・F2 散布図の作成

4. 分析結果

4.1 聴覚判定の結果

表1は、聴覚判定で「糸と干支」「今と絵馬」「寿司と獅子」「獅子と煤」「煤と寿司」の項目について、それぞれ区別ができるか否かを、世代別に表に示したもので、左から青年層(35歳以下)、中年層(36歳~60歳)、老年層(61歳~75歳)、古老層(76歳以上)という順番に配置した。また、同じ年齢層の中でも左から年齢の若い順にした。話者の詳細は、前述の「話者データ一覧」を参照されたい。年齢が上がるにしたがい「い」「え」、「し」「す」の中舌化も顕著に現れることを想定していたが、表1の結果では、むしろ中年層から古老層までほぼ均等に「区別あり」と「区別なし」がみられた。青年層は1名だけの調査となり、これは予想通り区別がみられた。また、すべての項目において「区別あり」と判定されたのは、青年層でMK(34歳)、中年層でII、HH、YSの3名、老年層でTH、HEの2名、古老層でHEの1名であった。

逆に「区別なし」は、中年層でYNの1名、老年層でHH、YTの2名、古老層でRN、KFの2名であった。

以下、年層別に「区別なし」の音声を中心に記述する。

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--------|----|----|----|----|----|--------|----|----|----|--------|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 煤と寿司 | ○ | ○ | / | ○ | / | ○ | ○ | ○ | / | ○ | ○ | / | ○ | ○ | ○ | / | / | / | / |
| 獅子と煤 | ○ | ○ | / | ○ | / | ○ | ○ | ○ | / | ○ | ○ | / | ○ | ○ | ○ | / | / | ○ | / |
| 寿司と獅子 | ○ | ○ | / | ○ | / | ○ | ○ | ○ | / | ○ | ○ | / | ○ | ○ | ○ | / | / | ○ | / |
| 今と絵馬 | ○ | ○ | ○ | ○ | / | ○ | / | / | ○ | ○ | / | / | / | ○ | / | / | / | ○ | / |
| 糸と干支 | ○ | ○ | / | ○ | / | ○ | / | / | ○ | ○ | / | ○ | ○ | ○ | / | / | ○ | ○ | / |
| 青年 | ← 中年 → | | | | | | ← 老年 → | | | | ← 古老 → | | | | | | | | |
| MK | II | MI | HH | YN | YS | YK | YS | HH | TH | HE | YT | TK | RI | HE | RN | KF | TN | MT | |
| 斐川 | 出雲 | 斐川 | 仁多 | 平田 | 三刀 | 大社 | 斐川 | 斐川 | 斐川 | 出雲 | 出雲 | 斐川 | 大社 | 仁多 | 斐川 | 出雲 | 大社 | 平田 | |

表1. 世代差における聴覚判定の結果

○…区別あり /…区別なし

① 「い」と「え」

○青年層は区別があった。

○中年層は「区別なし」が斐川町、平田町、大社町の計3名みられた。斐川MIは44歳であったが、「糸と干支」の区別がなく、「え」が完全に[i]の音であった。平田YNも同様でいずれも[i]であったが、「今と絵馬」は[e]（或いは[i]）であった。大社YKはどちらの調査項目も[e]（或いは[i]）であった。

フォルマントの値は、

- ・斐川MI 「糸」 [i] : F1 322Hz F2 2325Hz 「干支」 [i] : F1 366Hz F2 2217Hz
- ・平田YN 「糸」 [i] : F1 366Hz F2 2519Hz 「干支」 [i] : F1 366Hz F2 2347Hz
- ・大社YK 「糸」 [e] : F1 284Hz F2 1922Hz 「干支」 [e] : F1 283Hz F2 1905Hz
- ・平田YN 「今」 [e] : F1 409Hz F2 2368Hz 「絵馬」 [e] : F1 409Hz F2 2304Hz
- ・大社YK 「今」 [e] : F1 236Hz F2 2325Hz 「絵馬」 [e] : F1 301Hz F2 2519Hz

○老年層は「区別なし」が斐川町2名、出雲市1名であった。「糸と干支」では、斐川YSはどちらの単語も[i]、斐川HHも同様に[i]、一方出雲YTはどちらも完全な[e]であった。「今と絵馬」について、斐川HHは[e]（或いは[i]）、出雲YTも[e]（或いは[i]）であり、「糸と干支」の場合よりは若干母音の中舌化がみられた。

フォルマントの値は、

- ・斐川 YS 「糸」 [i] : F1 279Hz F2 2196Hz 「干支」 [i] : F1 366Hz F2 2045Hz
- ・斐川 HH 「糸」 [i] : F1 344Hz F2 2239Hz 「干支」 [i] : F1 366Hz F2 2217Hz
- ・出雲 YT 「糸」 [e] : F1 323Hz F2 1770Hz 「干支」 [e] : F1 343Hz F2 1967Hz
- ・斐川 HH 「今」 [e] : F1 376Hz F2 2217Hz 「絵馬」 [e] : F1 191Hz F2 2374Hz
- ・出雲 YT 「今」 [e] : F1 269Hz F2 2022Hz 「絵馬」 [e] : F1 354Hz F2 2258Hz

○古老層は「区別なし」が斐川町2名、大社町2名、出雲市1名であった。「糸と干支」では斐川 RN、出雲 KF とともに [i] の音声であった。「今と絵馬」では、斐川 RN と出雲 KF は [i]、斐川 TK と大社 TN は [e] (或いは [i])、大社 RI は「今」が [e] (或いは [i]) であったが、「絵馬」は完全に [e] であった。

フォルマントの値は、

- ・斐川 RN 「糸」 [i] : F1 310Hz F2 1841Hz 「干支」 [i] : F1 301 Hz F2 2222Hz
- ・出雲 KF 「糸」 [i] : F1 244Hz F2 2131Hz 「干支」 [i] : F1 322Hz F2 2304Hz
- ・斐川 TK 「今」 [e] : F1 215Hz F2 2411Hz 「絵馬」 [e] : F1 193Hz F2 2304Hz
- ・大社 RI 「今」 [e] : F1 300Hz F2 2262Hz 「絵馬」 [e] : F1 418Hz F2 2567Hz
- ・斐川 RN 「今」 [i] : F1 301Hz F2 2260Hz 「絵馬」 [i] : F1 344Hz F2 2304Hz
- ・出雲 KF 「今」 [i] : F1 366Hz F2 2110Hz 「絵馬」 [i] : F1 344Hz F2 2411Hz
- ・大社 TN 「今」 [e] : F1 245Hz F2 1819Hz 「絵馬」 [e] : F1 250Hz F2 2012Hz

以上、「い」と「え」における「区別なし」の音声について青年層から老年層までをみたところ、4つの音声パターンがあることがわかった。

1. 「い」も「え」も [i] である。
2. 「い」も「え」も [e] である。
3. 「い」も「え」も [e] (或いは [i]) である。

※両者に区別があるかどうかは判定しにくく、さらに詳細な分析が必要である。これについては今後の課題としたい。

4. 「い」は [e]、 「え」は [e] である。

② 「し」と「す」³

○青年層は区別があった。

³ 「し」と「す」に関しては、フォルマントの測定が不可能であった単語も幾つか見受けられた。これは「し」や「す」が摩擦音のため母音が無声化したものと考えられる。

○中年層は、斐川 MI と平田 YN が「区別なし」で、「寿司と獅子」、「獅子と煤」、「煤と寿司」の全ての項目において、「し」と「す」が[sü]であった。

フォルマントの値は、(※下線の部分がフォルマントを測定したものである)

- ・斐川 MI 「すし」 [ü] : F1 283Hz F2 1275Hz 「しし」 [ü] : 測定不可
- ・斐川 MI 「しし」 [ü] : F1 328Hz F2 1270Hz 「すす」 [ü] : 測定不可
- ・斐川 MI 「しし」 [ü] : 測定不可 「すす」 [ü] : 測定不可
- ・斐川 MI 「すす」 [ü] : 測定不可 「すし」 [ü] : F1 356Hz F2 1355Hz
- ・平田 YN 「すし」 [ü] : F1 404Hz F2 1505Hz 「しし」 [ü] : F1 403Hz F2 1569Hz
- ・平田 YN 「しし」 [ü] : F1 458Hz F2 1367Hz 「すす」 [ü] : F1 385Hz F2 1497Hz
- ・平田 YN 「しし」 [ü] : F1 431Hz F2 1441Hz 「すす」 [ü] : F1 404Hz F2 1452Hz
- ・平田 YN 「すす」 [ü] : F1 457Hz F2 1406Hz 「すし」 [ü] : F1 456Hz F2 1601Hz

○老年層は、斐川 HH と出雲 YT において全ての調査項目で[ü]であった。

フォルマントの値は、

- ・斐川 HH 「すし」 [ü] : F1 357Hz F2 1482Hz 「しし」 [ü] : F1 441Hz F2 1329Hz
- ・斐川 HH 「しし」 [ü] : F1 426Hz F2 1487Hz 「すす」 [ü] : 測定不可
- ・斐川 HH 「しし」 [ü] : 測定不可 「すす」 [ü] : F1 385Hz F2 1368Hz
- ・斐川 HH 「すす」 [ü] : 測定不可 「すし」 [ü] : F1 425Hz F2 1362Hz
- ・出雲 YT 「すし」 [ü] : F1 379Hz F2 1418Hz 「しし」 [ü] : 測定不可
- ・出雲 YT 「しし」 [ü] : F1 395Hz F2 1374Hz 「すす」 [ü] : F1 392Hz F2 1289Hz
- ・出雲 YT 「しし」 [ü] : 測定不可 「すす」 [ü] : F1 411Hz F2 1231Hz
- ・出雲 YT 「すす」 [ü] : 測定不可 「すし」 [ü] : 測定不可

○古老層は、斐川 RN、出雲 KF、大社 TN、平田 MT で「区別なし」となった。ここで最も特徴的なこととして、出雲 KF の「し」と「す」に[i]が現れたことである。大社 TN、斐川 RN、平田 MT は全ての調査項目で[ü]であった。

フォルマントの値は、

- ・出雲 KF 「すし」 [i] : F1 351Hz F2 1661Hz 「しし」 [i] : F1 311Hz F2 1625Hz
- ・出雲 KF 「しし」 [i] : F1 345Hz F2 1549Hz 「すす」 [i] : F1 334Hz F2 1441Hz
- ・出雲 KF 「しし」 [i] : 測定不可 「すす」 [i] : F1 350Hz F2 1406Hz
- ・出雲 KF 「すす」 [ü] : 測定不可 「すし」 [i] : F1 344Hz F2 1578Hz
- ・大社 TN 「すす」 [ü] : 測定不可 「すし」 [ü] : F1 331Hz F2 1732Hz
- ・斐川 RN 「すし」 [ü] : F1 341Hz F2 1539Hz 「しし」 [ü] : F1 317Hz F2 1492Hz

| | |
|--------------------------------------|-------------------------------|
| ・斐川 RN 「しし」 [ɰ] : F1 362Hz F2 1315Hz | 「すす」 [ɰ] : F1 369Hz F2 1352Hz |
| ・斐川 RN 「しし」 [ɰ] : F1 401Hz F2 1337Hz | 「すす」 [ɰ] : F1 375Hz F2 1405Hz |
| ・斐川 RN 「すす」 [ɰ] : 測定不可 | 「しし」 [ɰ] : F1 339Hz F2 1213Hz |
| ・平田 MT 「すし」 [ɰ] : F1 283Hz F2 1573Hz | 「しし」 [ɰ] : F1 306Hz F2 1664Hz |
| ・平田 MT 「しし」 [ɰ] : F1 315Hz F2 1554Hz | 「すす」 [ɰ] : F1 320Hz F2 1568Hz |
| ・平田 MT 「しし」 [ɰ] : F1 432Hz F2 1621Hz | 「すす」 [ɰ] : F1 426Hz F2 1453Hz |
| ・平田 MT 「すす」 [ɰ] : F1 412Hz F2 1605Hz | 「しし」 [ɰ] : F1 419Hz F2 1449Hz |

4.2 「区別なし」におけるフォルマントの特徴

前項で「い」と「え」、「し」と「す」の聴覚判定をおこない「区別なし」を中心にその音声とフォルマントの値を記述した。ここでは「区別なし」の音声「区別あり」のそれとどのような位置関係にあるか音響的に調べるため、それぞれの第1フォルマントと第2フォルマントを座標軸にした散布図を作成した。

○「い」と「え」

図1~4は、「糸と干支」「今と絵馬」におけるF1・F2散布図である。「区別あり」(図1, 3)では、「い」(+)と「え」(○)がほぼきれいに分かれて位置しているのがわかる。フォルマントの範囲をみると、「区別あり」の「い」は、F1 200~380Hz F2 1800~2700Hz、「え」は、F1 250~550Hz、F2 1,600Hz~2,600Hzとなり、若干F2の値の範囲が大きい感もあるが、ほぼ「い」([i])と「え」([e])の標準フォルマントに属しているといえよう。⁴

これに対し、「区別なし」(図2, 4)の音声では、「い」(+)と「え」(○)が重なりあって位置していることがわかる。フォルマントの範囲も「い」は、F1 200~400Hz F2 1,800~2,500Hz、「え」は、F1 190~410Hz、F2 2,000Hz~2,600Hzと「い」と「え」がほぼ同じ範囲内にある。その上、「え」のフォルマント値は[e]よりも[i]の方に近いところに散布しているようである。これは聴覚判定で6名の話者⁵が「え」を[i]と発音していたことと一致している。さらに、「い」も「え」も[e] (或いは[i])がみられた6名の話者⁶において

⁴ A・b・S法による日本語5母音分析結果による。

「い」 [i]は、F1 247Hz~367Hz、F2 2,093~2,173Hz

「え」 [e]は、F1 421Hz~612Hz、F2 1,766~2,053Hz

⁵ 中年層：斐川 MI、平田 YN 老年層：斐川 YS、斐川 HH 古老層：斐川 RN、出雲 KF

⁶ 中年層：大社 YK、平田 YN、老年層：斐川 HH、出雲 YT 古老層：斐川 TK、大社 TN

も、この散布図から判断すると、音響的に[e] (或いは[i]) は[i]の方に集約される傾向があると考えられる。

①糸：干支（「いと」と「えと」） +：い ○：え

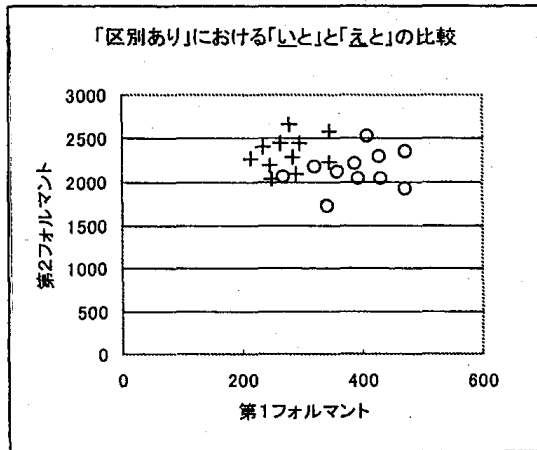


図. 1

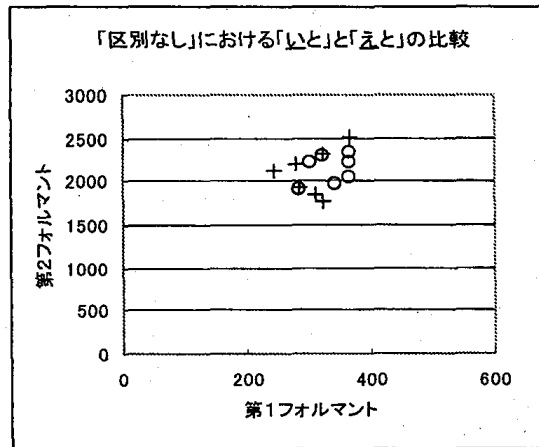


図. 2

②今：絵馬（「いま」と「えま」） +：い ○：え

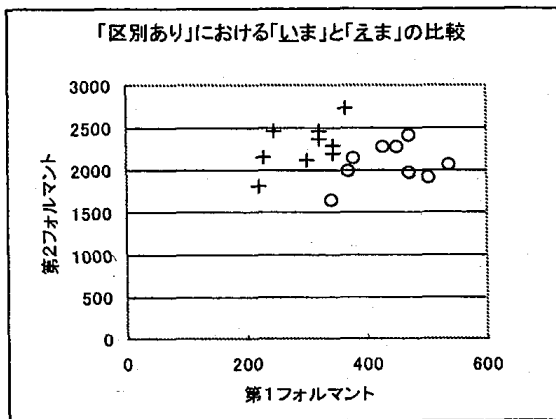


図. 3

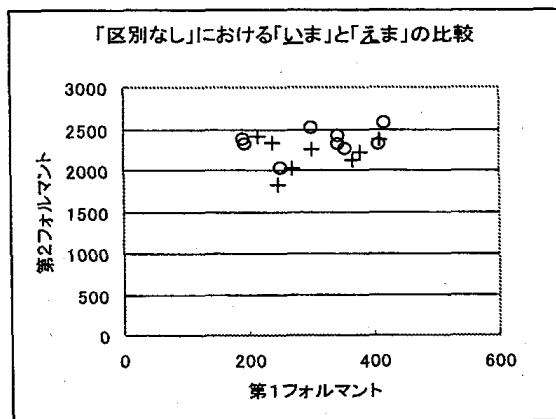


図. 4

○「し」と「す」

図5～12は、「寿司と獅子」「獅子と煤」「煤と寿司」におけるF1・F2散布図である。まず「区別あり」（図5, 7, 9, 11）では、第2フォルマントの1,500Hz付近を境界に「し」と「す」が分かれて散布している。「し」のF2は1,500～2,500Hz、「す」のF2は1,000～1,500Hzに存している。第1フォルマントは「し」がわずかに低い程度で、ほぼ「し」([i])と「す」([ɯ])の標準フォルマントに属しているといえよう。⁷

⁷ A-b-S法による日本語5母音分析結果による。

一方、「区別なし」(図 6, 8, 10, 12) では「し」と「す」の境界がなく、ほぼ重なり合っていることがわかる。「し」のフォルマント値は F1 300~450Hz、F2 1,300~1,700Hz、「す」は F1 300~400Hz、F2 1,200~1,700Hz であり、ほぼ同じ範囲内に位置している。フォルマントの値からすると「し」も「す」も [ɯ] の音声であると判断できよう。聴覚実験において「区別なし」であった「し」と「す」が、ほぼいずれも [ɯ] であったことを考慮すると、[ɯ] のフォルマントは「し」([i]) よりも「す」([ɯ]) の方に集約されていると考えられる。

③ 寿司と獅子 (「すし」と「しし」) ▲ : す × : し

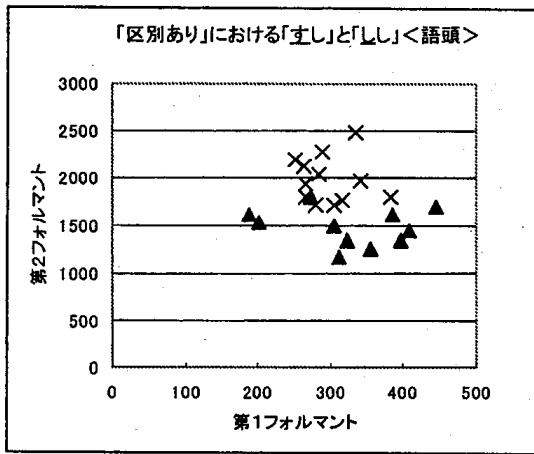


図. 5

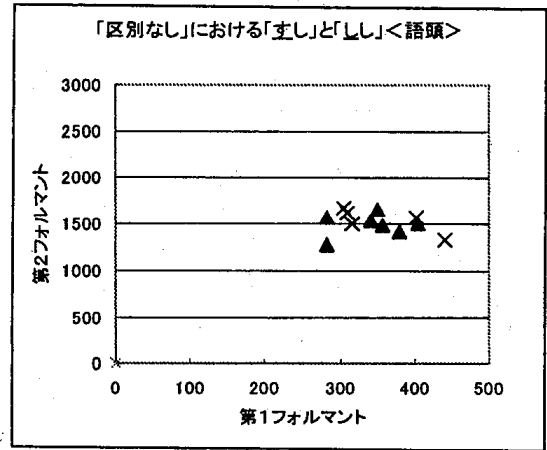


図. 6

④ 獅子と煤 (「しし」と「すす」) ● : し □ : す

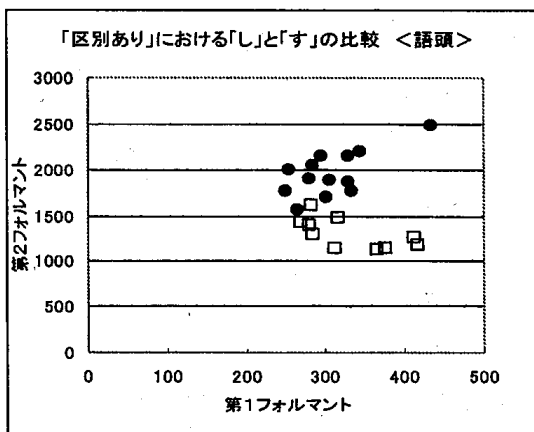


図. 7

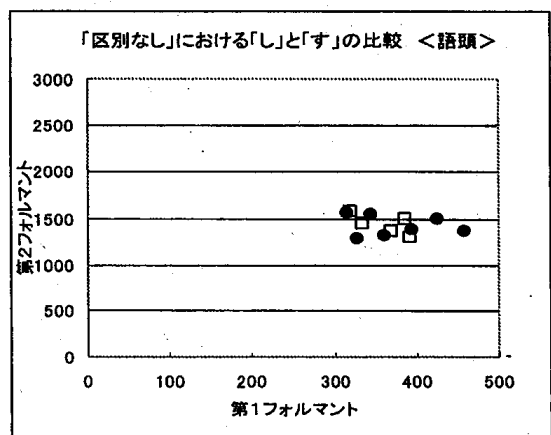


図. 8

「い」 [i] は、F1 247Hz~367Hz、F2 2,093Hz~2,173Hz
 「う」 [ɯ] は、F1 328Hz~366Hz、F2 973Hz~2,070Hz

⑤獅子と煤（「しし」と「すす」） ●：し □：す

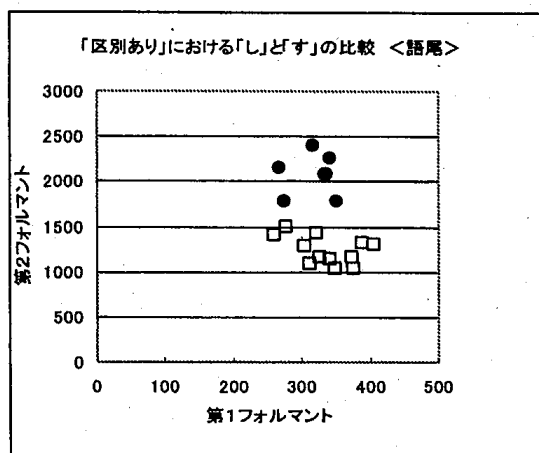


図. 9

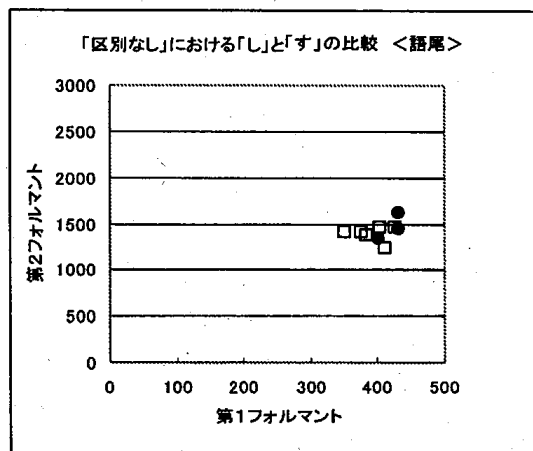


図. 10

⑥煤と寿司（「すす」と「すし」） ◆：す ◇：し

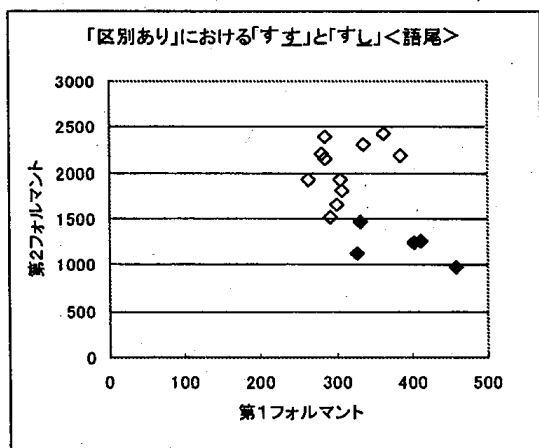


図. 11

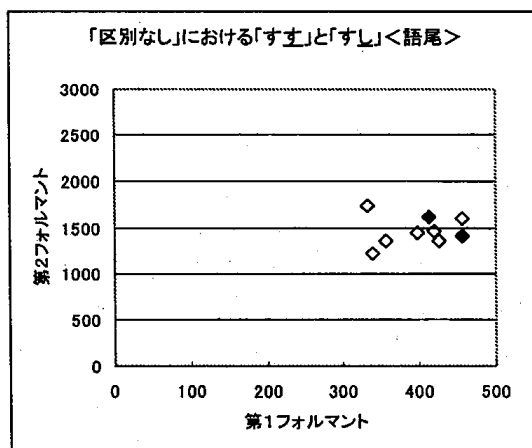


図. 12

5. 全体考察

以上、出雲地方の6地点をみてきた結果、確かに中舌母音や狭母音は出雲方言の特徴であるといえるほど多く見受けられた。世代差はほとんどなく、老年層以上でほぼ均等に現れた。今回の分析結果では「寿司」「獅子」「煤」の中舌母音はいずれも[ɨ]が圧倒的であり、音響的にみても中舌母音が[ɨ]寄りに散布していた。「出雲方言は[i]が多い」という先行研究とは異なる結果になったといえる。また、狭母音[e]は第1フォルマントが低く、そのため[e]よりも[i]寄りに散布する傾向があった。[e]と記述すると、確かに[e]よりは舌位置が高くなることは予想できるが、実際には[i]に近いところまでの値を

とるとは予想外であった。さらに、聴覚判定において「干支」や「絵馬」がいずれも完全な[i]となったために区別ができないというケースもあった。[e]を超えて[i]に変化したのであろうか。今後の課題としたい。

参考文献

- ・今石元久 1997『日本語音声の実験的研究』和泉書院
- ・徳川宗賢監修、佐藤亮一編集 1989「音韻総覧」『日本方言大辞典（全三巻揃）小学館
- ・杉藤美代子、本多清志 2003『母音—その性質と構造—』岩波書店
- ・藤村 靖 1972『音声科学』東京大学出版会
- ・飯豊毅一、日野資純、佐藤亮一 1982『講座方言学 8—中国・四国地方の方言—』国書刊行会
- ・田窪行則、前川喜久雄、窪園晴夫他 1998『岩波講座言語の科学 2 音声』岩波書店

<資料>フォルマント一覧

1. 糸：干支

| | 話者 | 市町村 | 年層 | 性別 | い | | え | |
|---|----|-----|----|----|-----|------|-----|------|
| | | | | | F 1 | F 2 | F 1 | F 2 |
| ① | YK | 大社町 | 中年 | 男 | 284 | 1922 | 283 | 1905 |
| ② | RI | 大社町 | 古老 | 男 | 236 | 2411 | 473 | 2347 |
| ③ | TN | 大社町 | 古老 | 男 | 248 | 2034 | 269 | 2061 |
| ④ | YN | 平田市 | 中年 | 男 | 366 | 2519 | 366 | 2347 |
| ⑤ | MT | 平田市 | 古老 | 男 | 291 | 2101 | 341 | 1724 |
| ⑥ | MK | 斐川町 | 青年 | 男 | 263 | 2455 | 394 | 2037 |
| ⑦ | MI | 斐川町 | 中年 | 男 | 322 | 2325 | 366 | 2217 |
| ⑧ | TH | 斐川町 | 老年 | 男 | 279 | 2670 | 430 | 2282 |
| ⑨ | YS | 斐川町 | 老年 | 男 | 279 | 2196 | 366 | 2045 |
| ⑩ | HH | 斐川町 | 老年 | 男 | 344 | 2239 | — | — |
| ⑪ | TK | 斐川町 | 古老 | 男 | 215 | 2260 | 322 | 2174 |
| ⑫ | RN | 斐川町 | 古老 | 男 | 310 | 1841 | 301 | 2222 |
| ⑬ | II | 出雲市 | 中年 | 男 | 297 | 2450 | 432 | 2037 |

| | | | | | | | | |
|---|----|------|----|---|-----|------|-----|------|
| ⑭ | YT | 出雲市 | 老年 | 男 | 323 | 1770 | 343 | 1967 |
| ⑮ | KF | 出雲市 | 古老 | 男 | 244 | 2131 | 322 | 2304 |
| ⑯ | HE | 出雲市 | 老年 | 男 | 247 | 2187 | 359 | 2107 |
| ⑰ | YS | 三刀屋町 | 中年 | 男 | 284 | 2289 | 473 | 1924 |
| ⑱ | HH | 仁多町 | 中年 | 男 | 258 | 2691 | 387 | 2217 |
| ⑲ | HE | 仁多町 | 古老 | 男 | 344 | 2583 | 409 | 2519 |

2. 今：絵馬

| | 話者 | 市町村 | 年層 | 性別 | い | | え | |
|---|----|------|----|----|-----|------|-----|------|
| | | | | | F 1 | F 2 | F 1 | F 2 |
| ① | YK | 大社町 | 中年 | 男 | 236 | 2325 | 301 | 2519 |
| ② | RI | 大社町 | 古老 | 男 | 300 | 2262 | 418 | 2567 |
| ③ | TN | 大社町 | 古老 | 男 | 245 | 1819 | 250 | 2012 |
| ④ | YN | 平田市 | 中年 | 男 | 409 | 2368 | 409 | 2304 |
| ⑤ | MT | 平田市 | 古老 | 男 | 219 | 1803 | 370 | 1989 |
| ⑥ | MK | 斐川町 | 青年 | 男 | 246 | 2452 | 379 | 2132 |
| ⑦ | MI | 斐川町 | 中年 | 男 | 344 | 2196 | 452 | 2260 |
| ⑧ | TH | 斐川町 | 老年 | 男 | 322 | 2454 | 538 | 2067 |
| ⑨ | YS | 斐川町 | 老年 | 男 | 322 | 2368 | 430 | 2260 |
| ⑩ | HH | 斐川町 | 老年 | 男 | 376 | 2217 | 191 | 2374 |
| ⑪ | TK | 斐川町 | 古老 | 男 | 215 | 2411 | 193 | 2304 |
| ⑫ | RN | 斐川町 | 古老 | 男 | 301 | 2260 | 344 | 2304 |
| ⑬ | II | 出雲市 | 中年 | 男 | 366 | 2734 | 473 | 2411 |
| ⑭ | YT | 出雲市 | 老年 | 男 | 269 | 2022 | 354 | 2258 |
| ⑮ | KF | 出雲市 | 古老 | 男 | 366 | 2110 | 344 | 2411 |
| ⑯ | HE | 出雲市 | 老年 | 男 | 228 | 2157 | 342 | 1639 |
| ⑰ | YS | 三刀屋町 | 中年 | 男 | 346 | 2282 | 505 | 1911 |
| ⑱ | HH | 仁多町 | 中年 | 男 | 301 | 2110 | 473 | 1959 |
| ⑲ | HE | 仁多町 | 古老 | 男 | — | — | — | — |

3. 獅子：煤（「しし」：「すす」）

| | 話者 | 市町村 | 年層 | 性別 | し | | す | |
|--|----|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| | | | | | F 1 | F 2 | F 1 | F 2 |

| | | | | | | | | |
|---|----|------|----|---|-----|------|-----|------|
| ① | YK | 大社町 | 中年 | 男 | 255 | 1992 | 284 | 1286 |
| ② | RI | 大社町 | 古老 | 男 | 306 | 1873 | 366 | 1130 |
| ③ | TN | 大社町 | 古老 | 男 | 328 | 1856 | 281 | 1613 |
| ④ | YN | 平田市 | 中年 | 男 | 458 | 1367 | 385 | 1497 |
| ⑤ | MT | 平田市 | 古老 | 男 | 315 | 1554 | 320 | 1568 |
| ⑥ | MK | 斐川町 | 青年 | 男 | 295 | 2147 | 269 | 1422 |
| ⑦ | MI | 斐川町 | 中年 | 男 | 328 | 1270 | — | — |
| ⑧ | TH | 斐川町 | 老年 | 男 | 266 | 1556 | — | — |
| ⑨ | YS | 斐川町 | 老年 | 男 | 250 | 1753 | 311 | 1143 |
| ⑩ | HH | 斐川町 | 老年 | 男 | 426 | 1487 | — | — |
| ⑪ | TK | 斐川町 | 古老 | 男 | 333 | 1757 | 416 | 1171 |
| ⑫ | RN | 斐川町 | 古老 | 男 | 362 | 1315 | 369 | 1352 |
| ⑬ | II | 出雲市 | 中年 | 男 | 343 | 2189 | 280 | 1398 |
| ⑭ | YT | 出雲市 | 老年 | 男 | 395 | 1374 | 392 | 1289 |
| ⑮ | KF | 出雲市 | 古老 | 男 | 345 | 1549 | 334 | 1441 |
| ⑯ | HE | 出雲市 | 老年 | 男 | 280 | 1896 | — | — |
| ⑰ | YS | 三刀屋町 | 中年 | 男 | 285 | 2049 | 377 | 1143 |
| ⑱ | HH | 仁多町 | 中年 | 男 | 302 | 1700 | — | — |
| ⑲ | HE | 仁多町 | 古老 | 男 | 328 | 2140 | 316 | 1475 |

4. 獅子：煤（「しし」：「すす」）

| I D | 話者 | 市・町 | 年層 | 性別 | し | | す | |
|-----|----|-----|----|----|-----|------|-----|------|
| | | | | | F1 | F2 | F1 | F2 |
| ① | YK | 大社町 | 中年 | 男 | — | — | 304 | 1275 |
| ② | RI | 大社町 | 古老 | 男 | 337 | 2070 | 327 | 1149 |
| ③ | TN | 大社町 | 古老 | 男 | — | — | 321 | 1422 |
| ④ | YN | 平田市 | 中年 | 男 | 431 | 1441 | 404 | 1452 |
| ⑤ | MT | 平田市 | 古老 | 男 | 432 | 1621 | 426 | 1453 |
| ⑥ | MK | 斐川町 | 青年 | 男 | 267 | 2143 | 278 | 1491 |
| ⑦ | MI | 斐川町 | 中年 | 男 | — | — | — | — |

| | | | | | | | | |
|---|----|------|----|---|-----|------|-----|------|
| ⑧ | TH | 斐川町 | 老年 | 男 | — | — | 348 | 1036 |
| ⑨ | YS | 斐川町 | 老年 | 男 | 274 | 1770 | 342 | 1131 |
| ⑩ | HH | 斐川町 | 老年 | 男 | — | — | 385 | 1368 |
| ⑪ | TK | 斐川町 | 古老 | 男 | 351 | 1777 | 374 | 1155 |
| ⑫ | RN | 斐川町 | 古老 | 男 | 401 | 1337 | 375 | 1405 |
| ⑬ | II | 出雲市 | 中年 | 男 | 342 | 2259 | 261 | 1399 |
| ⑭ | YT | 出雲市 | 老年 | 男 | — | — | 411 | 1231 |
| ⑮ | KF | 出雲市 | 古老 | 男 | — | — | 350 | 1406 |
| ⑯ | HE | 出雲市 | 老年 | 男 | — | — | 388 | 1306 |
| ⑰ | YS | 三刀屋町 | 中年 | 男 | 334 | 2082 | — | — |
| ⑱ | HH | 仁多町 | 中年 | 男 | — | — | 377 | 1022 |
| ⑲ | HE | 仁多町 | 古老 | 男 | — | — | 313 | 1083 |

5. 寿司：獅子（「すし」：「しし」）

| I D | 話者 | 市町村 | 年層 | 性別 | す | | し | |
|-----|----|-----|----|----|-----|------|-----|------|
| | | | | | F 1 | F 2 | F 1 | F 2 |
| ① | YK | 大社町 | 中年 | 男 | 280 | 2522 | — | — |
| ② | RI | 大社町 | 古老 | 男 | 355 | 1245 | 285 | 2048 |
| ③ | TN | 大社町 | 古老 | 男 | 187 | 1614 | 317 | 1763 |
| ④ | YN | 平田市 | 中年 | 男 | 404 | 1505 | 403 | 1569 |
| ⑤ | MT | 平田市 | 古老 | 男 | 283 | 1573 | 306 | 1664 |
| ⑥ | MK | 斐川町 | 青年 | 男 | 201 | 1526 | 264 | 2119 |
| ⑦ | MI | 斐川町 | 中年 | 男 | 283 | 1275 | — | — |
| ⑧ | TH | 斐川町 | 老年 | 男 | 311 | 1162 | 280 | 1710 |
| ⑨ | YS | 斐川町 | 老年 | 男 | — | — | 267 | 1804 |
| ⑩ | HH | 斐川町 | 老年 | 男 | 357 | 1482 | 441 | 1329 |
| ⑪ | TK | 斐川町 | 古老 | 男 | 408 | 1440 | 382 | 1798 |
| ⑫ | RN | 斐川町 | 古老 | 男 | 341 | 1539 | 317 | 1492 |
| ⑬ | II | 出雲市 | 中年 | 男 | 305 | 1490 | 290 | 2273 |
| ⑭ | YT | 出雲市 | 老年 | 男 | 379 | 1418 | — | — |

| | | | | | | | | |
|---|----|------|----|---|-----|------|-----|------|
| ⑮ | KF | 出雲市 | 古老 | 男 | 351 | 1661 | 311 | 1625 |
| ⑯ | HE | 出雲市 | 老年 | 男 | 386 | 1607 | 266 | 1940 |
| ⑰ | YS | 三刀屋町 | 中年 | 男 | 396 | 1343 | 342 | 1971 |
| ⑱ | HH | 仁多町 | 中年 | 男 | 324 | 1335 | 304 | 1711 |
| ⑲ | HE | 仁多町 | 古老 | 男 | 272 | 1805 | 252 | 2188 |

6. 煤：寿司（「すす」：「すし」）

| I D | 話者 | 市町村 | 年層 | 性別 | す | | し | |
|-----|----|------|----|----|-----|------|-----|------|
| | | | | | F1 | F2 | F1 | F2 |
| ① | YK | 大社町 | 中年 | 男 | — | — | — | — |
| ② | RI | 大社町 | 古老 | 男 | — | — | 386 | 2175 |
| ③ | TN | 大社町 | 古老 | 男 | — | — | 331 | 1732 |
| ④ | YN | 平田市 | 中年 | 男 | 457 | 1406 | 456 | 1601 |
| ⑤ | MT | 平田市 | 古老 | 男 | 412 | 1605 | 419 | 1449 |
| ⑥ | MK | 斐川町 | 青年 | 男 | 332 | 1467 | 285 | 2143 |
| ⑦ | MI | 斐川町 | 中年 | 男 | — | — | 356 | 1355 |
| ⑧ | TH | 斐川町 | 老年 | 男 | 459 | 969 | 291 | 1521 |
| ⑨ | YS | 斐川町 | 老年 | 男 | 328 | 1126 | 305 | 1929 |
| ⑩ | HH | 斐川町 | 老年 | 男 | — | — | 425 | 1362 |
| ⑪ | TK | 斐川町 | 古老 | 男 | 403 | 1244 | 307 | 1805 |
| ⑫ | RN | 斐川町 | 古老 | 男 | — | — | 339 | 1213 |
| ⑭ | II | 出雲市 | 中年 | 男 | — | — | 286 | 2379 |
| ⑮ | YT | 出雲市 | 老年 | 男 | — | — | — | — |
| ⑯ | KF | 出雲市 | 古老 | 男 | — | — | 398 | 1439 |
| ⑰ | HE | 出雲市 | 老年 | 男 | — | — | 264 | 1919 |
| ⑱ | YS | 三刀屋町 | 中年 | 男 | — | — | 281 | 2203 |
| ⑲ | HH | 仁多町 | 中年 | 男 | — | — | 301 | 1661 |
| ⑳ | HE | 仁多町 | 古老 | 男 | — | — | 336 | 2295 |